

本日欠席の委員からの意見聴取

本日の第 2 回ヒグマ保護管理方針検討会議に出席できない委員に対して、現行方針からの修正点等を説明し意見を伺う場を設けた。概要は以下の通り。

1. 意見聴取の日時

- 1) 松田委員 平成 28 年 8 月 15 日 (月) 11:30~14:00 於札幌市北海道地方環境事務所
- 2) 山中委員 平成 28 年 8 月 19 日 (金) 14:00~16:00 於斜里町知床博物館
- 3) 敷田委員 平成 28 年 9 月 6 日 (火) 12:30~13:10 於羅臼町商工会館

2. 主な意見

1) 松田委員

- ・積極的に捕獲し管理しようとする方針の全道計画に対し、知床計画は遺産地域でもありトーンが異なることを明記しておく必要がある。記載の場所は「計画の位置づけ」が适当。
- ・「保護管理方針の総括」の記載が不十分である。課題を書いて終わるのではなく、課題に対して次期計画でどのような改善策をとりうるのかといった方向性についても可能な限り書くべきである。また、個体群動態について 1 期で把握するに至らなかったことも書くべきである。
- ・個体群自体のモニタリングについて、目標に位置付けられないことが最大のポイントである。個体群が把握できないからできるだけ捕獲数は抑えようとなるわけで、人間側への対策も強化するとしているが効果は未知数であり、結局状況を改善できるかは不明である。
- ・全道計画でも問題になっているが、問題個体数が捕獲上限を上回った場合にどのような対応をとるのか考えておく必要がある。例えば本計画では生け捕りにして発信機を付けるなどの対応も可能だろう。
- ・利用者がヒグマを見る場として最もポピュラーなのは観光船である。観光船での普及啓発や観光船における不適切な行動などを明記すべき。観光船を特定管理地に位置付けることも考えられるか。
- ・カメラマンに対する規制など、強硬的な手段は現状では選択しづらい。しかし問題を解決するためにはこういった手段は必要であり、そのためには世論を変える必要がある。次期計画期間中には、ヒグマに関するシンポジウムを開催してはどうか。知床財団で行っているクマ端会議を更に大きくしたようなイメージである。そういった取組を行って世論が変われば規制も可能になるし、取組が進む中でカメラマンが自主的にルールを定めようとなればそれはそれでよい。
- ・ヒグマ対策連絡会議に専門家を入れるなり科学委員会に報告するなり、専門家に定期的

に情報共有を行う体制はつくるべきだろう。平成 25 年に岩尾別川でヒグマカメラマンの問題が発生し科学委員会から緊急声明を出した際も、知床財団からメーリングリストで情報共有が無ければ委員は見逃していた可能性がある。

2) 山中委員

- ・ 現行方針の目的にある「サケ科魚類等の捕食を通じて」という文言は、知床では非常に大事な要素である。目的から削除するべきではない。
- ・ 管理の方策について、不適切な行為等を明示し協力を求めるという段階はすでに過ぎている。具体的な利用者対策を検討し組み立て始める必要ある。
- ・ モニタリングの項目について、目標に書き込めない具体的な内容をここに書き込んでどうか。また、モニタリング項目に問題個体数の把握が入るのではないか。
- ・ 北海道の役割分担について、捕獲のためだけの人材育成ではなく、総合的な対策を推進できるような人材育成・組織の整備が必要であろう。
- ・ 計画の点検・見直しについて、連絡会議の開催だけでなく、アクションプランを作成して点検するような文言を加えるなど、計画策定後の議論や実効性を担保するような工夫を加えてほしい。

3) 敷田委員

- ・ 意図的な資源利用をしている人たちを計画に位置付けるべき。現在の案では、意図的に利用をしている人とそうでない人を一緒くたに啓蒙しようとしているが、その段階は終わった。将来的にはそのような人たちを組織化し、計画に取り込む（便宜供与と参加）のが理想である。今回の改定では、そのような人の計画への参加を促進するくらいは書けるのではないか。一般利用者も含め利用者の大半がこれに分類されうるだろう。